

ビデオ

『典座教訓』の心を再現！

監修指導 小倉玄照

ビデオ実践講座1全3巻

自坊に
おける典座作法・赴粥飯法VHSカラー・各巻45分
全三巻揃価格三七八四円+税

禅寺における食のあり方を説いた「典座教訓」。
その心「法食一如」と寺院での精進料理の作り
方や食し方も網羅。

第一巻・三心と三徳 第二巻・六味と味わい
第二巻・四大と赴粥飯法

高祖道元禅師録参究叢書 全5巻

大本山永平寺編

菊判・上製カバー・セット函入
全五巻揃価格二〇四九五円+税

750回大遠忌奉賛出版

道元禅師の教えは、「行学一如」「不離叢林」「只管打坐」
の精神に裏打ちされなければ理解できない。「知的対
象としての道元」といった世俗の風潮を排し、禅の真
髓「体で覚える」ことを目的とした「現代叢林の碩学
大佛寺法堂」による高祖録参究の金字塔。
上巻ノ儀式
コレ今ノ
永平寺ナリ

第一巻・普勧坐禅の参究 第二巻・宝慶記の参究
第三巻・学道用心集の参究 第四巻・辨道法の参究
第五巻・典座教訓の参究

道元禅師七五〇回大遠忌の基本理念——慕古

「傘松」連載の珠玉の提唱に新原稿を加う！

道元禅師が理想とする人間の生き方

道元禅師が用いられる「慕古」の「慕」は、

今は失われてしまった古い時代のよき風習を、

何らかの手だてを尽くして今に復活させようとする意思が、

明確に内に秘められているという点を、

私たちは見落としてはならないのです。

いわゆる進歩史観を否定した上で「慕古」を参究するとして、

では道元禅師が理想とする人間の生き方は那边にありやを

考えてみたいと思います。

それは、とりもなおさず、

「正伝の佛法」の真髄は如何、

という問題でもあります。

小倉玄照

小倉玄照著



道元禅師の慕古

道元禅師伝研究

中世古祥道著

【正編】一〇〇〇円+税
【続編】一三〇〇円+税

道元禅師の御伝記にかかわる従来の定説を、『行
状記』『伝光録』古写本『建徳記』を基に再考！

道元思想の本質

五十嵐卓三著

三八〇〇円+税



道元禅師の出自とその時代背景が、思想形成の根
幹にどのように関わっているかを綿密に検証。

松下龍吟

植崎一光老師語録

遠藤友彦監修

一五〇〇円+税



叢林を離れず、ひたすら坐禅に打ち込み、多くの
人材を育成した植崎一光老師。その生涯にわたる
語録の中から一〇〇〇余首を収録。

教授戒文提唱

橋本恵光老師述

六五〇〇円+税



高祖道元禅師の『教授戒文』を、達磨大師の『一
心戒文』を踏まえてわかりやすく説く。随所に恵
光老師独自の訓読、送り仮名が示され、筆録なら
ではの肉声が聞こえてくるかのような筆致で、厳
しいながらも親しみやすい。宗侶説戒の指針。



国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村 1-13-15
TEL 03-5970-7421 FAX 03-5970-7427

意義ある出版

大本山永平寺監院 南澤道人

道元禪師七百五十回大遠忌奉修の基本理念「慕古」の心を、「傘松」誌に連載された小倉師が加筆して一冊にまとめ、このたび出版されたことは意義あることと存じます。

著者は曾て講師として永平寺僧堂に安居し、道元禪師の教えを日常生活の中で行じた体験をふまえ、仏法を懇切に語ってくれます。この一冊は、人間の生き様の中に仏法を活かし続け、実践し得てこそ光を放つものであることを、読む人に臍落ちするように示してくれるでしょう。広く味読されんことを願い一言推薦申し上げます。

明解でわかりやすい

大本山永平寺後堂 本田祖芳

著者と小納は、昭和五十年前後に、永平寺維那として在職中に初相見。著者の講師寮はすぐ近くでその人となりをよく承知しています。師は高祖道元禪師を慕古する道念厚く、当時、坐禅弁道に関わることを小納もあれこれ尋ねられたものです。師の文章は、わかりやすく明解で、古い難解な文章も師の筆になると楽しく読めるのです。

今は、田舎のご自坊で大自然と共に生活しておられますが、その体験の中から『道元禪師の慕古』の講述をされました。道元禪師の煖皮肉を現代に道破しようとする意欲が随所に感じられます。著者の真面目な生活をよく知る者として心より推薦し、広くおすすめいたします。

慕古の真髓に迫る

盛岡市報恩寺住職 天藤全孝

永平寺の行持や規律正しい日常生活の中に、宗祖道元禪師が今も生きておられる。そしてわれわれは、坐禅を正法として伝えねばならない使命がある。

慕古とは、永遠に新たなものを慕う生活の中に、坐禅が生きていることである。

道元禪師は古を慕い正法を説いてやまなかった。本書は、道元禪師の「慕古」の語を選び、その真髓に迫った珠玉の提唱である。心から推薦したい好著である。

慕古の慶快

瑞応寺専門僧堂堂長 檜崎通元

「古仏道元禪師さまの生きさまを今に」と提唱する著者が、参究の第一に「便所の作法」を掲げ、「慕古の慶快なり」の祖訓を明示して下されました。これは師自身の日常底であり、叢林に安居して坐臥、洗面、洗浄、喫茶喫飯を古仏に習って稽古する法孫の真面目であります。

日本文化の原点を現代に復活させ、仏種増長し更には和楽浄土たらしめんとする誓願に賛意を表し、諸龍象が「報恩の行持」の手引き書として調度下されば法幸に存じます。

道元禪師の慕古 目次

- 【一】 便所の作法……………『正法眼蔵』洗淨
- 【二】 得法に男女の差はない……………『正法眼蔵』礼拝得髓
- 【三】 土との関わりを回復しよう……………『正法眼蔵』鈴聲山色
- 【四】 否定される「慕古」も……………『正法眼蔵』鈴聲山色
- 【五】 大自然あつての佛道……………『正法眼蔵』佛性
- 【六】 慕古と稽古……………『正法眼蔵』大悟
- 【七】 慕古の基盤は叢林……………『正法眼蔵』行持(上)
- 【八】 貪名愛利を投げ捨てる……………『正法眼蔵』行持(下)
- 【九】 「三代相論」の教訓……………『正法眼蔵』行持(下)
- 【十】 われらが卑賤、驚怖しつつべし……………『正法眼蔵』行持(下)
- 【十一】 慕古の原点は只管打坐……………『正法眼蔵』行持(下)
- 【十二】 何もしないことの価値……………『正法眼蔵』行持(下)
- 【十三】 趙州古佛の生きさま……………『正法眼蔵』行持(下)
- 【十四】 佛法の根源にこだわる……………『正法眼蔵』行持(下)
- 【十五】 進歩史観の否定……………『正法眼蔵』行持(下)
- 【十六】 出家の矜持の回復を……………『正法眼蔵』行持(下)
- 【十七】 「在寺」も「出家」……………『正法眼蔵』行持(下)
- 【十八】 修行は期間限定のくり返し……………『正法眼蔵』行持(下)
- 【十九】 静の安居(規律)と動の遊行(自由)……………『正法眼蔵』行持(下)
- 【二十】 無常を觀する心……………『永平広録』巻五
- 【二十一】 自然破壊が進む世に……………『永平広録』巻七
- 【二十二】 グリーンプランと輪廻ないし円相……………『永平広録』巻十
- 【二十三】 上求菩提と下化衆生……………『永平広録』巻八
- 【二十四】 典座の古蹟……………『日本国越前永平寺知事清規』
- 【二十五】 疑似的貧窮生活の功罪……………『日本国越前永平寺知事清規』
- 【二十六】 管理職の哲学……………『日本国越前永平寺知事清規』
- 【二十七】 文明の哲学と自給自足の哲学……………『日本国越前永平寺知事清規』
- 【二十八】 大自然にだけ込む……………『日本国越前永平寺知事清規』
- 【二十九】 自己中心の克服……………『日本国越前永平寺知事清規』
- 【三十】 放ち棄てる……………『日本国越前永平寺知事清規』
- 【三十一】 棄てる稽古……………『日本国越前永平寺知事清規』
- 【三十二】 生きることは捨てること……………『日本国越前永平寺知事清規』

◆造本 四六判・上製カバー装・二五三頁
◆定価 本体二五〇円＋税

慕古と稽古

かなしむべし、大宋一國の在家出家、いづれの一箇も龍樹のことばをきかずしらず、提婆の道を通ぜずみざる。いはんや身現に親切ならんや。円月にくらし、満月を虧闕せり。これ稽古のおろそかなるなり、慕古いたらざるなり。古佛新佛、さらに真箇の

しるべし、身現円月相の揚眉瞬目それ端直なるべし。顔微笑つたはるべし。作佛作なり。もし身現をもとめば、すべし。身現円月相なるがゆ満月相を現すべし。しかある

と述べておられます。「稽古の人」は、佛祖のいきさまを慕って、そのとおりに生きようと努め励む人のことです。道を求める心があつてこそそれは可能なことです。道心の人も、稽古の人も結局は同じことでしょう。

からだで円月の相を表す、つまり、佛の相を現すためには、古佛のいきさま、その修行のかたちを真似して、繰り返し、繰り返し稽古しなければならぬ、と道元禪師は仰せになるのです。もちろん「慕古」は、「稽古」と表裏一体をなすもので、「慕古」が具体的なかたちとなつてからだ(肉身)に現成されるとき「稽古」となるといってもよいでしょう。「慕古」は、ニュアンス的にはややこころ(心)に比重がかかっています。しかしからだでの行動を伴わない「慕古」は似非です。一方「稽古」は、終始からだ(肉身)が問題となるのです。

稽古は、手本がなければ不可能です。古佛のいきさまを慕うにしても、そのかたち、せめて片鱗でも伝承している人が身近に居て初めて可能なことと言えます。『正法眼蔵』

